

江戸の博物絵師 関根雲停 ～牧野富太郎が愛した植物画

牧野記念庭園記念館（東京・練馬・東大泉） 2020.07.15～09.06



「牧野記念庭園記念館」は、1958(昭和33)年に植物学者「牧野富太郎」の自宅跡に、画伯の業績を記念する庭園及び記念館として開園し、園内には300種近い植物がある。今回、改装を記念してこれまでに得られた研究成果を盛り込み、牧野画伯が高く評価した博物絵師「雲停」の植物画を紹介している。

「牧野富太郎」(1862～1957)は、「日本の植物学の父」といわれ、多数の新種を発見し命名も行った近代植物分類学の権威で、その研究成果は50万点もの標本に観察記録や『牧野日本植物図鑑』等に代表される数多くの著作がある。

「関根雲停」(せきねうんてい)(1804～1877)は、幼少時の頃から絵を好み、花鳥図を得意とし博物画は数多く書籍が東京国立博物館に収蔵されている。



牧野富太郎



関根雲停の代表的な作品